

BOOK REVIEW

オンコロジークリニカルガイド
消化器癌化学療法 改訂6版

編：室 圭 上野 誠

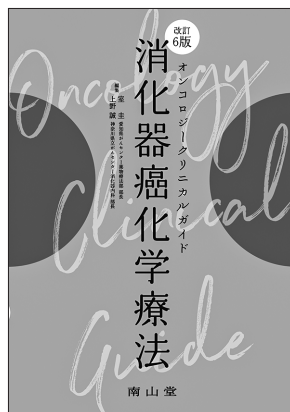
エビデンスを臨床に生かす力を育む
——『消化器癌化学療法』の羅針盤

がん薬物療法は近年急速に進歩し、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬、さらにはがんゲノム医療の普及により、治療は一層個別化が進んでいます。治療選択肢が増えるほど、膨大なエビデンスをどう整理し、薬剤師として日々の業務に生かすかが重要な課題となります。『消化器癌化学療法』改訂第6版は、その問いに応える実践的な一冊です。

本書は、愛知県がんセンターの室 圭先生、神奈川県立がんセンターの上野 誠先生らを中心とする編集陣により、消化器がん薬物療法を体系的に整理しています。まず各抗がん剤の作用機序、毒性プロファイル、薬物動態など薬剤師が押さえたい情報を丁寧に解説し、次に標準治療レジメンの考え方や使い方へとつながる構成が特徴です。さらに、それらの背景となる主要臨床試験のエビデンスを簡潔に示しており、「薬剤理解→レジメン理解→エビデンス理解」という流れで知識が積み上がる点が大きな魅力です。

近年重視されるバイオマーカーやがんゲノム医療についても要点が整理され、治療選択の背景を薬剤師が理解する上で大いに役立ちます。単に情報を得るだけでなく、疑義照会、毒性マネジメント、服薬指導、多職種連携といった薬剤師の実務に“どう活用するか”を自然と考えさせてくれる内容です。

本書は病院、外来化学療法室、在宅、保険薬局など、さまざまな場面でがん薬物療法に関わる薬剤師に役立ちます。治療レジメンの理解を深め、患者の不安



B5判／404頁

定価：6,930円（本体6,300円＋税10％）

発行：南山堂（2025年11月）

や毒性への対応に寄り添いながら支援するための“共通言語”を提供する書として、高い価値があります。

改訂第6版は、若手の学習にも、経験を積んだ薬剤師の最新情報の確認にも適した信頼性の高い臨床書です。ページを開くたびに、薬物療法の背景にあるエビデンスと、患者に最適な治療を届けるための視点が自然と身につく構成になっています。本書が、多くの薬剤師にとって日々の判断を支える“羅針盤”として活用されることを期待しています。

香川大学医学部臨床腫瘍学講座 教授 辻 晃仁